
勇樹の空を 2

ボーダン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇樹の空を2

【Nコード】

N6581I

【作者名】

ボーダン

【あらすじ】

ボクサーになった高校生の話

第二章

な”工藤先生”…。

確か俺の中学三年の頃の担当だ。

後藤先輩はしみじみ言う。

「俺が中学三年の頃に工藤先生が担当だったんだ。大分、世話になってなあ…。」

「そうなんですか？」

俺も中学三年は工藤先生だったんすよ！迷惑かけっぱなしだったですけど…。

俺と後藤先輩って共通点多いですね。

中学はパソコン部だったし、工藤先生だったし、ボクシング部だったし…。」

俺が後藤先輩との共通点を話すと後藤先輩は呆れながら言った。

「ボクシング部は俺が誘ったからじゃないか。」

後藤先輩の言葉を聞き、俺は頭をかいた。

「そうでした。」

そういえば、なんで俺をボクシング部へ勧誘した時は一年生の廊下を歩いてたんですか？」

「お前を探してたんだよ。
お前をボクシング部に入れる為にな。」

ん？俺をボクシング部に？
何故だ？

俺は後藤先輩の言葉に疑問を持った。

「どういう事っすか？」

「実は、工藤先生にお前が小弓原高校に入るから仲良くしてやってくれ、て頼まれたんだよ。
あいつは今、みんなの輪に入れないでいるから俺の入ってるボクシング部に入部させて話を聞いたりしてやってくれ、ってお前が中学を卒業したときに工藤先生から俺に電話がかかってきたんだよ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6581i/>

勇樹の空を 2

2010年10月10日06時57分発行